

コミュニティ・防災減災部門

天王寺区下寺町における地域課題解決プロジェクト「お寺 de ハロウィン」

特定非営利活動法人 MIRAI PLUS 事務局長 ○出水 季治
特定非営利活動法人 MIRAI PLUS 企画担当 浅松眞由美
西照寺 住職 正木 唯真

1. 活動方針・目的

天王寺区における地域課題として、「地域への愛着・誇り」、「地域における人々のつながり」、「人々が集う賑わいのある場の創出」、「多文化共生への理解促進」の4点を挙げ、同じ地域に暮らす住民としての相互理解や相互交流を促進し、様々な地域課題を自らが解決する・解決できる担い手の発掘や育成を行うこと。

2. 活動内容

大阪市天王寺区下寺町の「西照寺」を会場に、地域住民や在住外国人を対象に「ハロウィン」をテーマとする地域の歴史・文化と海外の伝統行事を融合させた文化理解のイベント「お寺 de ハロウィン」を開催し、英語ゲストによるハロウィンについてのレクチャーや、寺の住職による妖怪話のほか、地域の伝統産業である和紙を用いてジャックオランタンを作り、寺町を練り歩くハロウィンパレードを実施した。

3. 他の活動団体の参考となる事例

海外の伝統行事である「ハロウィン」を日本の「お寺」で開催することで、ハロウィンの持つ根源的な意義である、秋の豊穡への感謝の念とコミュニティの結束を表現するとともに、地元の歴史資源としてのお寺の存在意義についても多くの人々に実感してもらうことができた。

100名を超える地域住民がお寺に集い、日本語と英語でのレクチャーやアクティビティを通じて日本と海外の文化の違いや共通点を楽しみながら学ぶ機会を提供できた。「お寺」を単なる宗教の場としてとらえるのではなく、地域における学びの拠点としての位置づけで、さらには海外経験を有する住職との協働事業として海外の文化にも目を向ける活動として実施できたことは主催者としても意義深かった。

4. 今後の課題等

単なる一過性のイベントに終わることなく、参加者のみならず地域住民のニーズや関心にも配慮し、お寺を拠点とした学びの活動を地域として盛り上げ、継続させていくにあたり、資金面を含めた協力をどれだけ得られるのかが課題である。

天王寺区地域課題解決担い手発掘事業認定

お寺 de ハロウィン

特定非営利活動法人MIRAI PLUS

事務局長 出水 季治

光明山西照寺

住 職 正木 唯真

天王寺区の現状



- 大阪市のほぼ中央部に位置し、
人口は約70,000人。(20/24区・260万人)
- 交通の至便性
(地下鉄谷町線・千日前線、近鉄線)
- 医療機関の充実
(赤十字病院・警察病院・NTT病院など)
- 文教地区としての認知
(大阪府下における有名校が多数立地)



新たに天王寺区へ転入する区民の増加

天王寺区の歴史①



- 日本仏法最初の官寺・和宗総本山四天王寺
- 日本書紀に記される・生魂國神社

区内には200を超える寺社が存在し、上町台地西側には南北に寺ばかりが続く「下寺町」が形成されている。



- 大坂城唯一の弱点と言われた南側の防御のため、日本で初めて作られた寺町が起源
- 家康が好んだ浄土宗には広大な敷地が与えられることとなった。

天王寺区の歴史②



- 日本最初の国際交流拠点である四天王寺
- 日本の玄関口となる難波津・難波長柄豊碕宮（上町台地・中央区）
- 市の国際交流拠点・大阪国際交流センター（旧大阪外国語大学跡地）
- 多数の日本語学校



約4000人の在住外国人が居住

目的①

地域への愛着・誇り

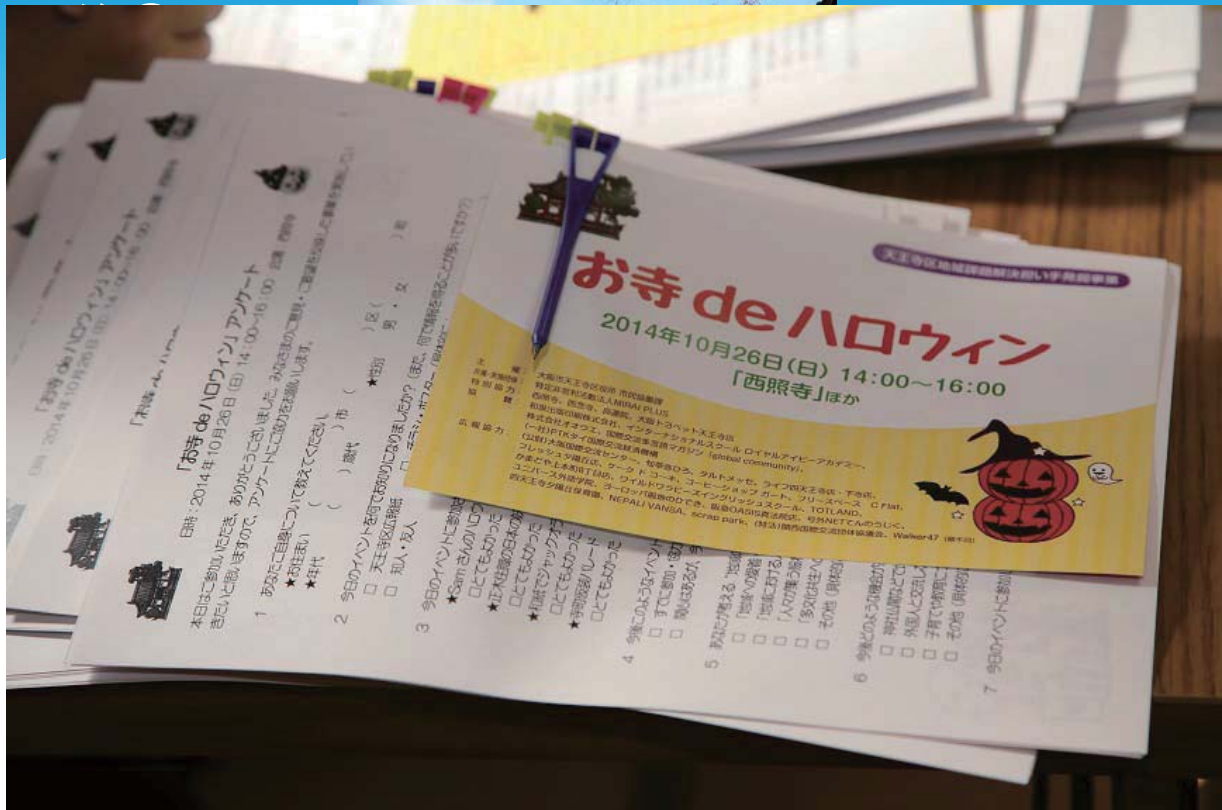
地域における人々のつながり

人々が集う
賑わいのある場の創出

多文化共生への理解促進



同じ地域に暮らす住民としての相互理解や相互交流を促進し、
様々な地域課題を自らが解決する・解決できる担い手の発掘・育成を行う。



活動内容①



○下寺町「西照寺」を会場に、地域住民や在住外国人を対象。



○海外の伝統文化である「ハロウィン」について
米国人ゲストによる英語でのレクチャー。



○住職による妖怪話。

活動内容②



○地域の伝統産業である和紙を用いてジャックオランタン作りのワークショップ。



○寺町を練り歩くハロウィンパレード。

活動内容③



西照寺本堂にてレクチャー



和紙で思い思いの
ジャックオランタン作り



一斉に点灯



寺町を練り歩く



行く先々でお菓子をもらう



フィリピン領事もご参加くださいました

今後に向けて

